「いわての復興教育」支援

「いわての師匠」派遣事業 実施事例集

いわて未来づくり機構　復興教育作業部会

令和６年８月 改訂版

― 目　次 ―

いわての復興教育プログラムにおける教育的価値具体の 21 項目 …… 1

いきる

「生活習慣病予防教室」 …… 2
令和５年度／岩手県立大学 看護学部　講師　蘇武 彩加

「パラアスリートによる『夢を諦めないことの大切さ～デフサッカーを通して～』」 …… 3
令和５年度／あいおいニッセイ同和損害保険(株)　所属　松本 卓巳

「君の可能性にかける～チャンスを掴むには」 …… 4
令和５年度／(一社)岩手県宅地建物取引業協会　会長　多田 幸司

「“おとな”に近づいている今、知っておいてほしいこと」 …… 5
令和３年度／岩手県立大学 看護学部　講師　木谷地 祐子

「生活設計・マネープランゲーム」 …… 6
令和２年度／(一社)岩手県銀行協会　菊池 芳泉

かかわる

「復旧、復興の歩み／災害に備える地域づくり」 …… 7
令和５年度／岩手大学 地域防災研究センター　教授　福留 邦洋

「地域の安全マップ作成にかかわる町あるき（フィールドワーク）」 …… 8
令和５年度／岩手県立大学 総合政策学部　准教授　宇佐美 誠史

「地域社会の現状と、新たなビジネスの創造・起業」 …… 9
令和４年度／岩手県信用保証協会 企業支援部企業支援課　副課長　井上 里華

「災害に備える地域づくり」 …… 10
令和３年度／岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター　教授　眞瀬 智彦

そなえる

「災害時の医療活動～かけがえのない命を守るために～」 …… 11
令和５年度／岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター　教授　眞瀬 智彦

「『語り・継ぎ』トランプ体験／災害時に役立つもの作りワークショップ ほか」 …… 12
令和５年度／岩手大学 学校安全学研究センター　准教授　本山 敬祐

「自然災害のメカニズムと命を守るための情報・活用・伝達」 …… 13
令和４年度／岩手県立大学 総合政策学部　講師　杉安 和成

「身のまわりのリスクと備え」 …… 14
令和４年度／あいおいニッセイ同和損害保険(株) 岩手支店自動車営業課　高橋 桃子

「災害時にまず何をする？何が必要？～災害があったときに大事なこと～」 …… 15
令和３年度／岩手保健医療大学 看護学部看護学科　助教　齋藤 史枝

「一関市で被害があった地震災害の特徴とその対応策（備え）」 …… 16
令和２年度／岩手大学 理工学部システム創成工学科　准教授　山本 英和

いわての復興教育プログラムにおける教育的価値具体の 21 項目

いきる	1	**かけがえのない生命** すべての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にする。
	2	**自然との共生** 自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念を持ち、自然とともに生きることについて考える。
	3	**価値ある自分** どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。
	4	**夢や希望の大切さとやり抜く強さ** 夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、どんな状況においてもたくましく生きていくという強い意志と態度を養う。
	5	**自分の成長** 自分の成長や生活が多くの人の支えで成り立っていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようにする。
	6	**心の健康** つらいことや悲しいこと、環境からくるストレスなどを感じた時の対処方法を学び、自分自身で心の健康を維持する。
	7	**身体の健康** 周囲の環境を理解し、状況に合わせながら安全に気を付けて遊んだり、運動したりする。
かかわる	8	**家族のきずな** 安心して生きていくための生活基盤として、家族の絆を大切にする。家族の一員として、自分の役割を果たす。
	9	**仲間とのつながり** 互いに支え合う仲間をつくり、友情を大切にする態度を養う。
	10	**地域とのつながり** 幼児や高齢者の人々・障がいのある人々等が一緒に生活している地域社会の人の思いを知り、地域への愛着をもつことができるようにする。
	11	**ボランティア・救援活動** 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。
	12	**自分と地域社会** 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。
	13	**復旧・復興のあゆみ** 震災津波等の自然災害で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。
	14	**災害に備える地域づくり** 次の災害に向けたまちづくり、地域づくりにかかわる。
そなえる	15	**自然災害の様子と被害の状況** 震災津波等、自然災害の様子と被害の状況について理解する。
	16	**自然災発生のメカニズム** 震災津波等、自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解する。
	17	**自然災害の歴史** 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく。
	18	**災害のライフライン・地域経済への影響** 震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、水・電気・ガス・灯油・ガソリン・道路などの供給・輸送システムやその大切さを理解し、ライフラインが止まった時に対応できるようにする。
	19	**災害時における情報の収集・活用・伝達** 震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、情報の大切さ、情報の収集、選択・判断、発信の方法などについて理解し、活用できるようにする。
	20	**学校・家庭・地域での日頃の備え** 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。
	21	**身を守り、生き抜くための技能** 危機を予測（回避）し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。

いわての復興教育プログラム第３版／岩手県教育委員会より抜粋

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（いきる）

派遣先		紫波町立紫波第二中学校
日　時		令和 5 年 12 月 13 日（水）　13:45 ～ 14:35
場　所		紫波第二中学校　音楽室
対　象		2 学年 25 名、3 学年 33 名
講　師		岩手県立大学 看護学部　講師　　蘇武 彩加 氏
内容	テーマ	生活習慣病予防教室
	要旨	「生活習慣と病気の関係」という題材でご講演いただきました。生活習慣病予防は良い生活習慣の積み重ねが大切であり、規則正しく 3 食食事を摂ること、たくさん体を動かすこと、しっかり眠ることの重要性を教えていただきました。
	参加者からの感想	・喫煙や過度の飲酒はもちろん日々の生活習慣の積み重ねが今後、健康な体で生活できるかどうかに関わっていることを改めて確認することができました。これからの受験へ向けて健康管理も意識して生活していきたいです。 ・がんなどの病気は、生活習慣と深く関わっていることを知りました。今のうちから、「関係ない」と思わず、予防していきたい。これから、もう少し早寝早起きを心がけます。また、間食も少なくします。 ・これまでの自分の生活習慣は、部類にもよるけれど健康とはまだ離れているものだということに気がつきました。「健康は一生の財産」であることを意識し、まだ自分の生活習慣に足りないものを補っていきたいです。
	授業・講演等による効果	生徒は、今の自分の生活習慣「食事・運動・睡眠」をチェックシートで把握し、今日からできること、続けていくことを考えてシートに記入し、その内容を隣の人に宣言することによって、改善に向けた行動変容につなげようとする姿が印象的でした。 最後に生徒から「どうしたら寝られるようになるか」という質問があり、「寝られない時は無理に寝ようとすると返ってストレスになる。その時は割り切って、読書をしたり宿題をしてみる。」という助言をいただくことができ、より一層学びを深めることができました。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（いきる）

派遣先		岩手県立紫波総合高等学校
日　時		令和 5 年 10 月 19 日（木）　11:00 ～ 12:00
場　所		紫波総合高等学校　体育館
対　象		全校生徒 222 名、教職員 42 名
講　師		あいおいニッセイ同和損害保険株式会社　所属　　松本 卓巳 氏
内容	テーマ	パラアスリートによる「夢を諦めないことの大切さ ～デフサッカーを通して～」
	要旨	マレーシアで開催された「第 4 回世界ろう者サッカー選手権大会（デフサッカーワールドカップ）」の報告をしながら、聴覚障がいやデフサッカーについて語ってくださった。聴覚障がいについては、歌を交えながら、マスク越しでのコミュニケーションの難しさ、補聴器の特性、災害時の対応の難しさについて伝えていただいた。
	参加者からの感想	・耳が聞こえないとどうなるのか、補聴器を使うとどんな風に聞こえるのか、これから耳が聞こえない人に会ったらどのように対応すればよいか分かった。夢をあきらめずに努力を続けデフサッカーで銀メダルをとって本当にすごい。メダルを全員に触らせてくださったのも感動です。私も夢に向かって突き進みたい。 ・障がいがあっても一生懸命努力をすれば、日本代表に選ばれる人になれるのだと思った。僕もスポーツが好きで、部活動で成果を出したいと頑張っている。松元さんのように努力し続けられるような人になりたい。
	授業・講演等による効果	本校生徒及び職員のほとんどがデフサッカーへの理解がなく、障がいのある方々のスポーツの課題や魅力を知る機会となった。 障がいを「自分らしさ」と説き、「人間誰しも得意・不得意がある。私はたまたま耳が聞こえないだけであり、それをネガティブに捉えてはいない。できることを頑張り続ける。」という発言や周囲のサポートに感謝しながら、信念を持ち夢に向かって進み続ける松元さんの言葉に強く心を打たれ、多くの生徒が前向きに生きるための希望と勇気をいただいた。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（いきる）

派遣先		北上市立北上中学校
日　時		令和５年９月８日（金）　9:00 ～ 10:20
場　所		国立岩手山青少年交流の家
対　象		２学年 200 名
講　師		一般社団法人岩手県宅地建物取引業協会　会長　　多田 幸司 氏
内容	テーマ	君の可能性にかける～チャンスを掴むには
	要旨	本校の２学年では、毎年 11 月に「立志式」を行っている。14 歳になる節目に、今まで育ててくれた両親や見守ってくれた周囲の方々に感謝し、今後の自分の人生への決意を新たにする機会となっている。 それに先立ち、人生の中で重大な選択をする場面はいくつもあり、その選択をどのようにして人生を切り開いていけばいいのか、という内容のお話を、講師の多田先生に経験談を楽しく織り交ぜながら講演していただいた。
	参加者からの感想	・私は、講師の多田先生の話を聞いて、判断能力は、今変化し続けている社会に対してとても大事なことだとわかりました。 ・多田先生に成功できる方法について教えていただきました。判断能力を磨くこと、興味をもって勉強すること、他人の成功や失敗を分析することで、成功できる確率が増えると知りました。 ・多田さんの話の中に、「判断」「選択」という言葉が何度も出てきました。「普段の生活の中の選択で人生は変わる」というお話を聞いて、判断能力の大切さを学びました。
	授業・講演等による効果	生徒たちは、人生の中で迫られる大きな選択についてどのように考えて決めていけばいいのか興味をもって聞いていたように思う。ベストな選択をするためには普段の学習や生活で学ぶことも大事だが、周りの人たちの行動から学ぶことも多いとわかり、これから意識して生活してほしいと願っている。そして、今回の講演会で学んだことを参考に、今後こうなりたいという自分を表す四字熟語を決め、自分の決意としてしっかり発表できるよう、立志式に向けて取り組んでいきたい。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（いきる）

派遣先		岩泉町立小川中学校
日　時		令和３年７月５日（月）　13:35 ～ 14:25
場　所		小川中学校
対　象		１学年 10 名、２学年 11 名、３学年７名
講　師		岩手県立大学 看護学部 母子看護学・助産学　講師　　木谷地 祐子 氏
内容	テーマ	“おとな”に近づいている今、知っておいてほしいこと
	要旨	思春期における体の発達と個人差についてや、心理的発達に伴う性に関する不安や悩みへの対処について、生命の誕生や異性の尊重、性情報や性被害への対処について生徒の実感に結びつくように分かりやすくご講話いただいた。講話の中では、助手で来ていただいた妊婦の教員が赤ちゃんの心音を聞かせてくださったり、赤ちゃん人形を抱っこしたりと、体験活動も組み込まれていた。
	参加者からの感想	今回の指導教室では、思春期は、脳が命令を出し、ホルモンが作られることも始まるということが分かったし、思春期が始まると体と心に色々な変化がおきるということが分かった。また、私達は最初 0.13mm ぐらいの大きさだったということにおどろいた。赤ちゃんを抱っこしてみて、思っていたより重たかったし、首がすわっていなくて、だっこするのが大変だったので、長時間だっこしている母は大変だなと感じた。辛い思いをして生んでくれた母や大切に育ててくれている多くの人に感謝しながら生きていきたいと感じた。
	授業・講演等による効果	今迎えている思春期の中で、体と心がどのように発達し、不安へどのように対処すればよいのか、生徒各々が深く理解し、今後の学校生活や将来に取り入れようとする意識がみられた。また、生命の誕生を学習する中で、苦痛を乗り越えて小さい命を出産してくれた母親や大切に育ててくれる父親、生まれてきた自分への尊重と感謝も感じることのできた講演であった。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（いきる）

派遣先		盛岡市立乙部中学校
日　時		令和 2 年 11 月 13 日（金）　13:30 ～ 14:30
場　所		乙部中学校
対　象		2 学年 15 名、保護者 6 名
講　師		一般社団法人岩手県銀行協会　　菊池 芳泉 氏
内容	テーマ	生活設計・マネープランゲーム
	要旨	講師の方の進行で、カードゲーム教材「生活設計・マネープランゲーム」を行った。内容は 20～40 歳までの人生の中で得られるお金や支出にはどんなものがあるか、引いたカードの結果からゲーム形式でシミュレーションを行った。
	参加者からの感想	・マネープランゲームの中で、ローンに頭金が必要なことや、支出の中に非消費支出があることを初めて知りました。 ・難しい「三大資金」のこと、ローンのことはいずれ知っておかなければならないと思っていたので、その仕組みなどを生かして進路についても考えていきたいと思います。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（かかわる）

派遣先		一関市立厳美小学校
日　時		令和 5 年 3 月 1 日（金）　10:40 ～ 12:15
場　所		厳美小学校　体育館
対　象		全校生徒 92 名、教員 12 名
講　師		岩手大学 地域防災研究センター　教授　　福留 邦洋 氏
内容	テーマ	復旧、復興の歩み／災害に備える地域づくり
	要旨	本校 6 年児童の東日本大震災学習の発表を前半に実施し、その後講演をいただいた。自然災害を怖いものであるが、長い歴史の中では、その後もそこに住む住人たちの工夫によって、復興してきたこと。また、復興には目に見える復興と、目に見えない復興がある。それは、心の復興であり、いくら見た目の復興が進んでも、心の復興がなければ、本当の復興ではないこと。また、心の復興にスピードは、人によって違うことについて、1 年生にも分かりやすくお話しいただいた。
	参加者からの感想	・見えない復興は、人によって違うのでなかなか難しいけれど、自分の中で大切なことやこだわりを持っておくことで、どんな場所でも暮らしていく意欲につながることが分かり、学んだことを家の人に話したい。 ・地震後の生きる希望が無くなりかけたときに、その地域のよさが生きる気力につながるということが分かった。
	授業・講演等による効果	内陸地震や震災後 10 年以上経過し、本当の意味での復興を支えていく子どもたちが、自分たちの住んでいる地域に目を向け、心の支えとなる人とのつながりや地域のよさを考えるきっかけとなった。 与えていただいた視点をもとに、自分の住む地域を未来に向けどうして生きたいかを復興教育の柱の一つとしていきたい。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（かかわる）

派遣先		北上市立黒沢尻北小学校
日　時		令和５年９月５日（火）～９月 21 日（木）　のうち５日間
場　所		北上市立黒沢尻北小学校　ほか
対　象		3 学年 119 名、教職員 7 名、保護者 10 名、行政担当 10 名、地域代表 10 名
講　師		岩手県立大学 総合政策学部　准教授　　宇佐美 誠史 氏
内容	テーマ	講話・演習を通じ、児童の安全に対する資質・能力の向上を目指す。
	要旨	(1) フィールドワークで危険を探す視点、ポイントについてクイズ等を交えて説明していただいた。 ①交通安全：車の種類と多さ、車が走っている様子、自転車の多さ ②不審者：入りやすいところ、見えにくいところ ③道路やその周囲、建物などの危険：歩くのに危ないもの、壊れているもの ④こども 110 番の家・店 (2)チェックした危険個所を実際に探し、マップ上に記録した。 (3)フィールドワークの記録を基に、生徒たちでマップの作成を行った。
	授業・講演等による効果	・フィールドワークについて、視点を具体的に示していただいたことで、児童も危険性を具体的に予測し、マップに記録することができた。 ・フィールドワーク後に、当日調べた内容の活用の仕方をお話いただいたことで、今後の活動の見通しを持つことができ、マップ作りの意欲づけにもつながった。 ・マップ作りの際も、宇佐美准教授や一緒に歩いた地域の方にお手伝いいただき、フィールドワークの時の様子を思い出しながら作成することができた。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（かかわる）

派遣先		岩手県立水沢商業高等学校
日　時		令和 4 年 7 月 12 日（火）　13:30 ～ 15:20
場　所		岩手県立水沢商業高等学校
対　象		3 年ビジネス科 39 名
講　師		岩手県信用保証協会 企業支援部企業支援課　副課長　　井上 里華 氏
内容	テーマ	地域社会の現状と、新たなビジネスの創造・起業
	要旨	「地域経済活性化」の一つとなる企業について詳しく知り、事業計画書の作成方法を学ぶ。
	参加者からの感想	・起業について詳しく知ることで、多くの知識が必要であると再確認できた。 ・高齢者の多い地域のため、都会とは違ったニーズが隠れているのではないか。
	授業・講演等による効果	・外部講師を招いて講義をしてもらうことにより、生徒たちへ最新の生きた情報が届けられると考えている。地域に住む生徒たちが、自分たちの将来（起業）と自分たちの地域の将来を考える時間になったと感じる。 ・今回の講義は、授業で「この地域での新しいビジネスプラン」を創造する上での基盤となった。また、起業という選択から地域活性化、未来を生きていく生徒たちの力となることが期待できた。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（かかわる）

派遣先		盛岡市立北陵中学校
日　時		令和３年７月７日（火）　13:30 ～ 14:30
場　所		北陵中学校
対　象		１学年 164 名、教員６名
講　師		岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター　教授　　眞瀬 智彦 氏
内容	テーマ	災害に備える地域づくり
	要旨	災害医療の具体的内容、避難所の様子、感染症の仕組み等について
	参加者からの感想	・救急医療と災害医療の違いが特に印象的だった。重症の人を早く見つけるために、トリアージという方法があることを知った。災害に備えて、避難場所や必要なもの等、親と話して準備しておきたいと思った。 ・怪我をしたり病気になったりしたとき、当たり前に行っている病院でも、災害時はすごく大変な状況になることがわかった。自分たちはまだ中学生だが、ボランティアとして困っている人を少しでも助けたい。また、将来の夢は医療に携わる人になることだが、講演を聞いて、そのイメージが明確になった。 ・ニュースなどでは、「もっと早く助ければいいのに」と思っていたが、目の前で起きている状況を把握し、その場で治療することはすごく大変なことなのだと分かった。コロナは自然災害とは違うが、協力していかないといけないということもわかった。
	授業・講演等による効果	・生徒の感想を読むと、医療従事者等、災害現場で働く人や、普段お世話になっている病院関係者に対する見方や考え方が「大変な思いをして助けてくれている」「自分たちに協力できることは何か」といった考え方に変化しているのを感じた。 ・防災に関わって、事前の準備が大事なことはなんとなくわかっていたが、講演を聞いて、「自分たちの備えが災害現場を助けることにつながる」という言葉にもあるようにより一層その必要性を感じている生徒が多かった。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（そなえる）

派遣先		奥州市立稲瀬小学校
日　時		令和 6 年 3 月 7 日（木）　10:40 ～ 11:25
場　所		稲瀬小学校
対　象		全校生徒 75 名、教員 10 名
講　師		岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター　教授　　眞瀬 智彦 氏
内容	テーマ	災害時の医療活動～かけがえのない命を守るために～
	要旨	・被災された方はどのような病気・けがを負われたのか ・被災された方を医療者としてどのように助けたか ・被災した病院がどのような状態だったか　　・避難所はどのような状況だったか
	参加者からの感想	低学年：津波が来たときには、高いところに逃げることが分かった。／津波の映像を見てこんなに強いということを知れてよかった。もっと震災のことを調べてみたくなった。／東日本大震災は、水死で亡くなった人が多いのが初めて知りました。 中学年：津波は、命と大事なものを取られるので防災グッズを用意して危険を防ぎたい。／食料は 3 日～1 週間分を用意しておくとよいことが分かったし、トリアージを知れてよかった。 高学年：トリアージや津波の強さ、怖さなどいろいろ聞けた。自分もできることから防災をしていきたいし、防災マップを確認し、避難ルートも確認したい。／災害はいつ起こるのかわからないので、今日学んだことを生かしたいと思った。
	授業・講演等による効果	・専門的な内容だったが、小学生向けに構成を考えてくださったことで、低学年児童も集中して学ぶことができた。 ・デモンストレーションをしていただいたり、1 次トリアージを実際に自分で考えたりすることで現場での医療活動の様子がイメージできた。 ・津波の映像を初めて見た児童が多く、災害の恐ろしさを実感し、自分で身を守ることや備えが大切なことを学ぶことができた。 ・災害非常食をいただき、更に家庭に帰って話し合うきっかけにすることができた。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（そなえる）

派遣先		岩手町立沼宮内中学校
日　時		令和 5 年 6 月 26 日（月）　13:35 ～ 15:25
場　所		沼宮内中学校
対　象		2 学年 41 名
講　師		岩手大学 学校安全学研究センター　准教授　　本山 敬祐 氏
内容	テーマ	『語り・継ぎ』トランプ体験／災害時に役立つもの作りワークショップ ほか
	要旨	①「語り・継ぎ」トランプ体験、感想の共有、QR コードを利用した動画・HP 視聴 ②岩手町における震災当時の様子、地域住民・商店街の助け合いについての講話 ③身近な廃棄物を利用した、災害時に役立つもの作りワークショップ
	参加者からの感想	・トランプを使った今回の活動では、津波の怖さ、人とのつながりの大切さ、備えることの必要性がよくわかった。また、自分たちの住んでいる町で何が起きたのか、どんなことが大変だったのか知ることができた。 中学生でも高校生でも、いざとなれば周りを引っぱっていかなければいけないと知ったので、そのような振る舞いができるようになりたいと思った。 ・QR コードで紹介されていた原発の被害について初めて知った。東日本大震災では、そんな被害も含まれているのだと思った。グッズ作りでは、避難所では何に困るのかを考えながら作ったので、今までの学習とは少し違う視点から震災を学ぶことができた。 ・岩手町の当時の様子を聞いて、地域の人たちの助け合いがすごくいいものだと感じた。私も何か非常時のときは、自分のことだけでなく周りの人のことも助けられるよう、冷静な判断ができるようになりたいと思った。
	授業・講演等による効果	①これまでの学習で触れていなかった新たな視点にも目を向ける契機となった。各家庭での情報共有にも寄与すると思われる。 ②より身近な当時の様子を知ることができた。沿岸地区の被害には及ばないものの、自分事として捉えることにつながった。 ③知恵や工夫により、中学生の発想が地域や家族のために役立つということを実感することができた。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（そなえる）

派遣先		盛岡市立北松園中学校
日　時		令和 4 年 12 月 15 日（木）　13:40 ～ 15:30
場　所		北松園中学校 3 階　多目的ホール
対　象		2 学年 33 名、教員 3 名
講　師		岩手県立大学 総合政策学部　講師　　杉安 和成 氏
内容	テーマ	自然災害のメカニズムと命を守るための情報・活用・伝達
	要旨	災害のメカニズム等などの知識や岩手山噴火のハザードマップについての講演、HUG 体験をとおして、実際に災害から身を守るために必要な事柄について知り、周りの人々と支え合って、共に生きていくことに大切さを学んだ。
	参加者からの感想	・総合的な時間をとおして、地震や台風などの災害について学んだが、岩手山噴火については、まったく無関心だった。噴火によって、火山灰が実際に積もる量などを具体的に知ることでハザードマップの大切さを知った。 ・HUG 体験をすることで、避難者（ペットなど）によってその状態や状況がちがっているので、どんなことに気をつけて、避難させるかで混乱した。でも、実際に災害が起こったときに今回のようなことが充分できなくても、お手伝いはできるのではないかと思った。
	授業・講演等による効果	本校では、復興学習をとおして、1 学年で防災、2 学年で復興教育の一環として、災害メカニズムや被害、復興について学んでいる。生徒たちがそれぞれテーマをもって災害について調べ、まとめているが、最終的には、人やペットなどの生き物へ寄り添って、お互いに思いやりをもって生きていくことにつながることを感じた。 生徒会活動では「思いやり、尊重」などをキーワードに多くの活動が実施されているが、すべては、人とのつながり、思いやる心につながっていくことを感じたようである。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（そなえる）

派遣先		住田町立世田米中学校
日　時		令和４年 10 月４日（火）　13:30 ～ 15:00
場　所		世田米中学校　体育館
対　象		全校生徒 62 名、教職員 10 名
講　師		あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 岩手支店 自動車営業課　高橋 桃子 氏
内容	テーマ	身のまわりのリスクと備え
	要旨	生徒が自然災害の危機に際して自らの命を守り抜くため「主体的に行動する」態度を養うことを目的として防災学習を設定しました。そこで、あいおいニッセイ同和損害株式会社様に「身のまわりのリスクと備え」と題して講演をいただきました。
	参加者からの感想	・「cmap」を使えば、１つのサイトで様々なことを調べられるのがよいと思いました。 ・自分は今、何を備えればいいのかを知ることができて、より防災への意識が高まる良い機会だったと思います。
	授業・講演等による効果	「cmap（リアルタイム被害予測ウェブサイト）」というサイトを活用し、生徒自身が実際にタブレットを操作しながら、自分たちの住んでいる地域の情報を収集できる活動があり、とても効果的でした。また、クイズ形式で講演を組んでいただき、生徒の実態に合った内容になったと思います。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（そなえる）

派遣先		奥州市水沢南中学校
日　時		令和 3 年 10 月 29 日（金）　13:45 ～ 15:15
場　所		水沢南中学校
対　象		3 学年 213 名、教職員 12 名
講　師		岩手保健医療大学 看護学部看護学科　助教　　齋藤 史枝 氏
内容	テーマ	災害時にまず何をする？何が必要？ ～災害にあったときに大事なこと～
	要旨	1．講義「災害時の感染対策」 (1) 災害とは何か　(2) 災害時の避難所 (3) 避難所での感染管理、起こりやすい疾患 2．演習「体育館を避難所にしてみよう」 (1) 感染症予防をふまえたスペース (2) プライバシー保護のための工夫
	参加者からの感想	・「平時から準備をしておくこと」が大切だと改めて感じた。また、「誰もが生きやすい世の中をつくる」ことが大切だと思った。 ・災害によって起きる病気は、人間の行動すべてに要因があることを知った。人への気遣いはもちろん、一つ一つの行動に責任をもって過していきたい。人との関わりも大事にし、共に協力し、助け合っていきたい。 ・避難所の環境が悪いということから、国からの予算などの対応が必要だと思った。一人一人がすれば良いこともあるが、それだけではできないこともあると思った。
	授業・講演等による効果	「自助、共助、公助」について、広い視点で考えることができた。冷静な判断の必要性とともに、実際の備えだけでなく心の健康の維持について考えられるようになった。特に、人との関わり、コミュニケーションの大切さに目を向け、社会的弱者（高齢者、子ども、障がい者）に対して、実際の行動につながるよう自分ができることを具体的に考える生徒が増えた。 演習では、テントやトイレなど実物を見ながら考えることでイメージがわき、衛生面、感染対策も含めて、お互いが快適に暮らせることで精神的負担が軽減されるなど、スフィア基準に基づく考えをもつ生徒が多かった。

《授業風景など》

「いわての師匠」派遣事業　実施事例（そなえる）

派遣先		一関市立萩荘中学校
日　時		令和 2 年 11 月 11 日（水）　13:40 ～ 14:40
場　所		萩荘中学校
対　象		1 学年 60 名、2 学年 58 名、3 学年 63 名、教員 17 名
講　師		岩手大学 理工学部システム創成工学科　准教授　　山本 英和 氏
内容	テーマ	一関市で被害があった岩手宮城内陸地震など地震災害の特徴とその対応策（備え）
	要旨	地震の発生に関するメカニズムや地震が私たちの実生活に与える影響、本市の地質的な環境条件などについて説明していただくとともに、具体的な防災対策など私たちが日常生活で留意すべきことについて説明していただいた。 【講演の内容】 ・地震について　・地震の被害について　・地震のメカニズムについて ・地震の対策について　・一関市の地震危険度について
	参加者からの感想	・これまで何度も被害の様子を見てきましたが、阪神淡路大震災の実際の映像を見て鳥肌が立ちました。そして、一関にも危険があるということも知ることができたので、いつ地震が来てもいいように、水や非常食の備え、避難場所など確認していきたいです。 ・一関市は震度 6 弱以上になる確率が 30%と非常に高い数値だったので、すごく驚きました。このことを知って私は、地震は予知することは難しいけれど、きちんと防災対策をとって地震に備えたいと思いました。
	授業・講演等による効果	・子どもたちは、講演内容に興味を持ち、熱心に聞いていた。また、防災対策として避難場所の確認や避難グッズの準備など、災害に事前に備えることが大切であるという感想が多く出された。 ・教員からも「地震の説明が具体的でその対策のとり方がよく分かった」との感想が寄せられた。

《授業風景など》